

## 鶴川図書館の存続・充実を願って！

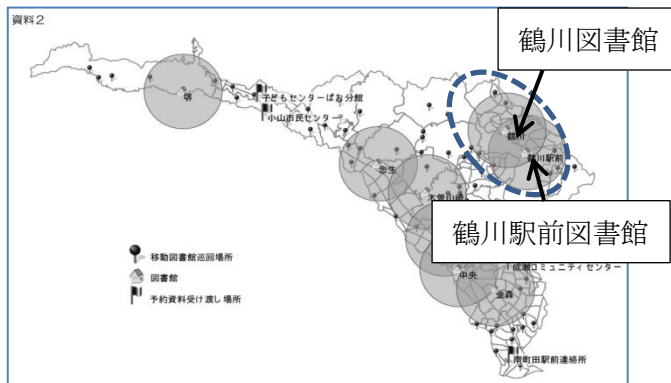
鈴木 真佐世(まちだ未来の会世話人)

昨年度より策定が進められてきた「町田市公共施設再編計画」では、図書館の集約・統合の対象として鶴川図書館が挙げられています。これに対して、鶴川地域住民と鶴川団地商店街および町田市の図書館を愛する市民は、この1年半、再編計画案に対する意見書を提出し、市議会へ鶴川図書館の存続を願う請願を行い、今年5月に市の主催で鶴川の2会場で開かれたワークショップ「鶴川地域図書館のこれから」でも積極的に前向きな意見を出してきました。

けれども、10月の町田市生涯学習審議会で「今後の町田市立図書館のあり方について」が諮問された際の配布資料「町田市立図書館のあり方見直しについて(案)」には、1年半前に出た「再編計画案」とも半年前に策定された「再編計画」とも何も変わらず、鶴川図書館と鶴川駅前図書館が集約化の対象に挙げられていました。

見直し案では、集約の主な理由として、鶴川図書館は①利用圏域が重複している②規模が小さく貸出冊数も大きく減少している③URによる商店会の建替えが予定されていることをあげています。でも、これらが本当に集約の理由となるのでしょうか。

①の資料として図書館マップが配布されました(右上の図参照)。半径1.5kmの円が重複していますが、1.5kmを子どももお年寄りも含めた利用者の徒歩圏とすることにも無理がありますし、鶴川地域全体を見れば、重複していない部分の方はずっと多いのです(点線の楕円内が、大雑把な対象地

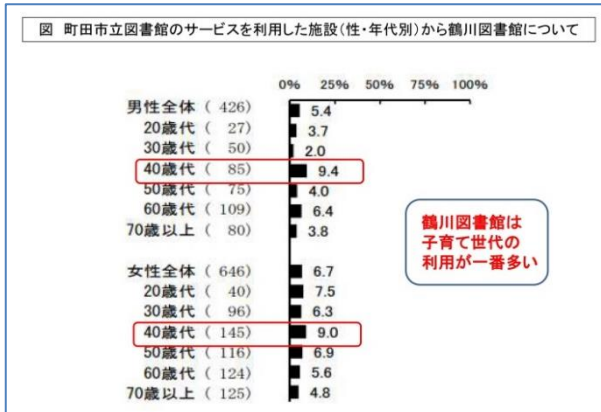
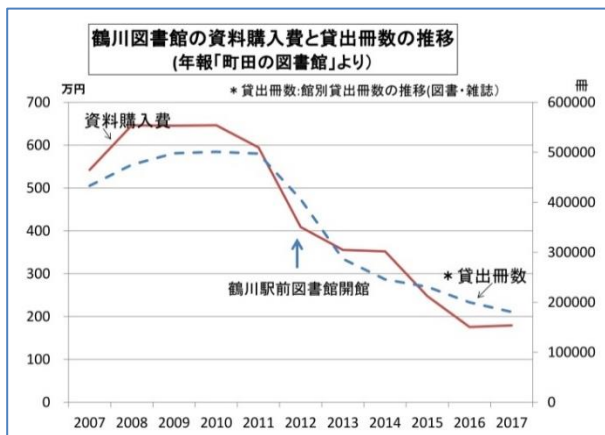


域)。駅から離れた地域(鶴川3~6丁目、真光寺、広袴、小野路など)の住民にとって、駅までは何キロもあります。駐車場のない鶴川駅前図書館までバスで行くのは大変ですが、駐車場があり、図書館の前が広場になっている鶴川図書館は行きやすく、子連れのママや、小学生1人でも安心して行かせられます。2つの館は役割が違うので、単に距離だけで重複とは言えないのです。

②貸出冊数の減少については、鶴川駅前図書館開館の影響ももちろんありますが、資料購入費の大幅な減少によって新鮮な蔵書が減ることによって貸出が減少しているということが、次頁左上のグラフでお分かりになると思います。

一方、規模が8館中最少であるにもかかわらず、2017年度の生涯学習についての市民意識調査では、4番目によく利用されていること(次頁左下グラフ)、子育て世代の利用が一番多いこと(同右上グラフ)も分かりました。子育て世代がよく利用するということは未来につながります。そして、図書館の利用

度は貸出冊数だけでは測れないことを意識調査が示しています。



り、ワークショップを開くなど、実際に意見を聞いてきましたが、聞くだけで、計画の策定にも実行にも何一つ反映させてきていません。このままでは、鶴川図書館は、民意が反映されることなく、閉館の恐れがあります。

そこで、この度、鶴川地域住民と商店会及び町田市の図書館を愛する市民一同は、石阪市長あてに「鶴川図書館の存続・充実を願う要望書」を提出することになりました。

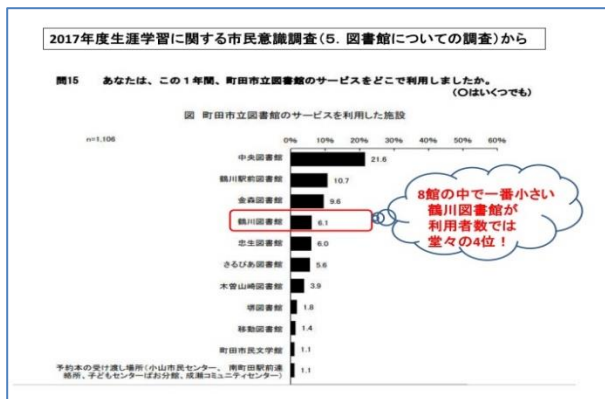
**< 要望事項 >**

「地域の情報・文化の拠点、コミュニティ形成の核として、魅力的な地域づくりに不可欠な鶴川図書館を今後も存続させるとともに、なお一層の充実を図ることを要望します。」

来年 1 月末に提出の予定でこれから署名活動を行います。この要望書に賛同してくださる方は、署名にご協力ください。(要望書は、町田の図書館活動をすすめる会の HP

<https://machida-library.jimdo.com>

のまちだ未来の会のページからダウンロードできます)。(会員)



③UR による鶴川団地センター街区の建替えに合わせて集約と書いてありますが、地元では、建替えるならば、図書館が今後もセンター街区の文化の核・コミュニティの核としての役割を担い、さらに魅力的な図書館に生まれ変わることを希望しており、UR にもその方向での建替え計画を要求しています。

市は、再編計画の策定の過程でも、市民の意見を聞くという言葉を何度も繰り返し、意見募集をした

**対話集会「どうなる? どうする! 市民自治と社会教育」を開催して**

●はじめに

11月25日、秋色濃い町田市芹ヶ谷公園の一角にある国際版画美術館の講堂で標記のテーマの集會が開かれた。メイン講師は元文部官僚で「ゆとり

蘭田 碩哉(まちだ未来の会代表)

教育」の推進役として知られる寺脇研氏(現在は京都造形芸術大学教授)。講演を踏まえて論議を発展させる論客として法政大学で社会教育学を講ずる荒井容子氏、東京学芸大学で図書館情報学を担

当する山口源治郎氏のお二人。これに町田市をはじめ周辺の各市、都心や他県からはるばる参加してくれた70余名の一家言ある市民の皆さん。これらのメンバーが熱く語りあって作り上げた3時間半に及ぶ討論空間はなかなか多彩だった。シンポジウムのコーディネーターとして関わった筆者が掬い上げた知見の一端を紹介したい。

### ●ゆとり教育と生涯学習

寺脇氏は文部省(2001年から文部科学省)時代に「ゆとり教育」を提唱して、子どもたちが自ら課題を見出し、その解決に取り組む学習者主体の教育を推進された。当初は大いに注目され、期待を集めた新方針だったが、やがて基礎学力の低下につながると批判され、氏は追われるように文部科学省を去る。その辺はよく承知していたのだが、ゆとり教育の土台となった考え方が「生涯学習体系への移行」であったことを伺ってなるほどと思った。平成になる直前に文部省に「生涯学習局」が誕生して従来の初等中等教育局に替わって筆頭局に位置づけられる。「学び」を学校に限定するのではなく、生涯にわたる課題として捉え直すことが時代の要請になったという認識がそこにあった。ゆとり教育は生涯学習の児童・生徒版だったというわけだ。以来、学校と地域(社会教育)との連携・融合が謳われ、地域が学校を包摂することが理念としては追求された。しかし、平成の30年を通じて残念ながら、それはお題目に終わってしまった。そして、今回の文科省組織の大改変で生涯学習局は姿を消し、代わりに「総合教育政策局」という新しい局が筆頭局とされることになった。

この改変の裏側にはいったいどんな意図が隠さ



れているのかというのが私たちが一番知りたいことだった。何しろ、最近の不祥事続きの文科省の体たらくを見ていると(唯一の救いは前川喜平氏の抵抗だったが、彼も寺脇氏同様、民間人とならざるを得なかった)、これがますます右傾化を強める安倍政権への迎合ではないかと勘ぐりたくもなるからである。寺脇氏の診断は、学校教育に対して官邸がいろいろ圧力をかけて来るので、初中局、高等教育局に今回の新局を加えて局長3人で対応していこうとする構えなのだという。ホントにそうなら一縷の望みはあるわけだが、市民としては今後の文科省を注意深く見守る必要がある。寺脇氏はそのための眼の付けどころをいろいろ教えてくださった。

### ●社会教育はなくなっているのか

荒井氏と山口氏は、寺脇氏とは一味違った視点から、教育政策への危惧を語られた。生涯学習局の誕生によって社会教育局がなくなった時に院生だったという荒井氏は、文部省が「社会教育」を軽視(あるいは敵視?)してきたことを問題にする。その推進のための専門職である社会教育主事の養成を見ても、大学にいくつも資格課程があるにもかかわらず、講習でも取れてしまう。それでいて有資格者の配置は進むどころか後退するばかり、公民館職員はどんどん非正規になっている。社会教育の存在意義は国の施策に協力して「まちづくり」に貢献するという方向にもって行かれようとしている、と指摘された。

山口氏は図書館に焦点を当てて論じられた。図書館の存在は権力への対抗軸として市民が民主主義の現状をチェックするための武器庫であるという原点を強調し、文科省の組織改編が図書館をどう位置付けているのかが見えないとされた。従来、教育委員会がやっていた文化やスポーツ施策を首長部局が扱ってよいことになって以来、図書館はじめ博物館などの存在価値が人を集める「観光資源」としてしか見られなくなっている。地方分権が拡大する中で首長による教育や文化の支配や手段化が進んでいる。それにどう対抗していけばいいのか、これは市民自治と繋がる課題である。

### ●わいわいタイムの盛り上がり

今回の対話集会の特色は、講師の3人を囲む「わ



いわいタイム」を設けたことだった。会場に寺脇、荒井、山口各氏の3つのコーナーを設けて、参加者がこれらと思う講師を取り巻いて質問を投げかけ、わいわい議論をしようという趣向。30分ほどの時間だったが、講師に疑問をぶつけ、熱い討論も巻き起こった。町田市の隣接する多摩市長の阿部氏も参加されて寺脇コーナーで発言、「自由な言論活動を保障するのは市長の役目」と大見えを切る一幕もあった。参加者から「講師の方と参加者との壁がない盛んなディスカッションが非常に有意義でした」という感想がもたらされた。この論議を踏まえて3人の演者が改めて意見交換を行い、これから市民が取り組むべき方策を話し合った。

社会教育や生涯学習という語が文科省の大看板からは見えなくなったことで、改めてその真価が問われている。目指すべき方向は、自分たちの「まち



を自分たちで運営していく自立した市民を育てることのはずだ。民主主義の基盤が掘り崩されようとしている現在、市民自治と社会教育・生涯学習を結び合わせる事が平成のその先を展望する私たちの課題なのだと痛感した。

## 第 17 期図書館協議会 第 12 回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2018年11月19日(月)午後3:00~5:15 中央図書館・中集会室 傍聴者:なし

### 【図書館評価外部評価報告提出】委員長より館長へ

<委員より図書館評価を終えて>

・理念に対する期待水準を読み取るのが難しかった。

・市民として図書館について深く学ぶ機会になったことに感謝。

・公共図書館がどうあるべきかを協議会委員としての視点で考えることが出来たのが収穫。個々の職員は頑張っているも図書館として見ると見えにくいところを評価によって発信できたらと思った。

・資料費の削減は蔵書の魅力減など様々なところにつながり、利用に響く。など

### 【報告事項】

#### 《館長報告》

#### 1. 教育委員会 11/2

<報告事項>「今後の町田市民文学館のあり方について(答申)」について

Q:市としての結論はいつ⇒答申を受け調整し、2月の教育委員会で意思決定。

#### 2. 生涯学習審議会第6回 11/13

「町田市立図書館のあり方見直し」について図書館説明 審議

### 3. その他

#### (1)第四次町田子ども読書活動推進計画策定委員会・作業部会合同会議 10/26

2020年3月策定に向けて作業中、原案作成後市民意見募集予定。

Q:協議会にも2月に諮られるのか⇒推進会議にかけられた後に協議会で報告という形。

Q:推進会議は年2回だけで、内容の把握は難しい。回数を増やせないか。⇒来年度は2回で行う。

意見:推進会議は報告だけで1時間以上かかり、検討までは難しい。回数が増やせないのなら、資料などを前もって配布するなど、工夫が欲しい。

#### (2)「POP コンテスト町田 2018」表彰式について 10/28

12名を表彰 8名参加 応募 125枚

#### (3)団体利用者懇談会について 11/8

17団体参加 「図書館のあり方見直しについて」説明

Q:団体からの意見はどのようなものか。⇒見直しに

ついて説明したので、そのことに対するご意見が多かった。

#### (4)生涯学習推進計画 2019-2023

現在素案作成中。まとめ次第メールで委員に送り、1月の協議会で意見を聞きたい。⇒後日図書館よりスケジュール再確認の上、12月中に意見が欲しいと連絡あり。

#### 【協議事項】

#### 委員長より生涯学審議会の諮問事項についての説明

- ・前回話題になった電子書籍図書館や、最近の図書館の動向について館長から説明があった。
  - ・学習格差を生じさせないための利用圏域半径1.5km、生活動線を考慮した配置。
  - ・図書館本来の役割と、にぎわい創出の役割。
  - ・鶴川図書館と鶴川駅前図書館、さるびあ図書館と中央図書館の再編について。
  - ・審議会では様々な意見が出ている。
- ＜委員から出た意見＞
- ・利用圏域半径 1.5 km は、子どもや高齢者にとっては適正とは言えない。中学校区に 1 館あってもよい。現在、空白地帯も多いが、再編で鶴川図書館やさるびあ図書館を集約すると、さらに空白地帯が増えることになる。
  - ・さるびあ図書館には独自の機能がある。その機能を活かし、子ども図書館など目的を特化した図書館にして、付加価値を付けては。
  - ・住民の生活圏域や生活動線を配慮することが大切で、重複しているところを無駄と考えてよいのか。
  - ・鶴川図書館については老朽化が問題となっているが、現在 UR が建替を計画しており、老朽化は解消される。商店街はあえて建替を望んでおらず、図書館の建替を条件としている。鶴川図書館廃止は商店街にとっては死活問題。
  - ・会計年度任用職員制度による人件費への影響で、民間活用、指定管理制度導入を考えているのなら、それはサービスの向上には繋がらない。指定管理制度により図書館に精通した職員がいなくなることは、指定管理での運営の評価や、行政として政策立案することもできなくなる。また、指定管理で運営するための市職員の事務的負担は大きい。

- ・団地の中の図書館には駅前図書館とは別の使命がある。
  - ・学校司書配置に向け、図書館の学校司書への支援がのぞまれる。
  - ・学校司書が常駐し、駐車場が確保できる学校の図書館は資材、人材の有効活用という観点から一般開放も検討できる。
  - ・大和市の学校図書館はスーパーバイザーを設け、充実につながっている。学校図書館との連携も検討できるのでは。
  - ・あり方見直しでは、方向性には具体性はなく、唯一具体的なのは鶴川図書館がなくなることだけという印象を受ける。しかし、鶴川図書館がなくなればならない理由は説得力がない。施設の圧縮ありきのあり方見直しは、圧縮のための方便のように感じる。
  - ・電子図書館については、システム構築にも運営にも莫大な費用が掛かる。契約が終了した時点で図書館には資料が残らないことを念頭に置くべき。
  - ・地域資料のデジタル化は早急に手を付けるべき。資料の散逸、酸性紙の劣化など差し迫っている。
- ★次回第13回定例会は2019年1月21日(月)午後3:00～5:00 町田市立中央図書館中集会室にて。傍聴自由ですが、休館日につき、事前に連絡をお願いいたします。☎042-728-8220(中央図書館)

#### まちだ未来の会 第19回 学習会

### 鶴川図書館が危ない!

#### —鶴川図書館の存続を求める緊急集会—

日時:2019年1月26日(土)午後1:30～4:00

会場:鶴川市民センター 2階 和室(1)

内容: 1. 鶴川図書館廃止問題の経過と背景  
2. 鶴川名店会の建替と鶴川図書館  
3. これからの取り組み

申込み:当日直接会場へ/資料代 300円

★アピール行動:午前10:30より1時間ほど鶴川図書館周辺で、存続を求める市長宛「要望書」への署名活動を行います! お手伝い頂ける方は午前10:15に鶴川図書館前にお集まりください。

連絡先:まちだ未来の会 TEL 090(4703)8878 (園田)  
TEL 090(1863)5174(鈴木)



# ひるば

**例会 11/27 (火) 報告**

・18:00~20:30 中央図書館・小集会室  
出席:石井・久保・庄司・鈴木(真)・手嶋・  
松下・守谷

12/7(金) 12:30~

No229 印刷・発送等(手嶋)

## 議題

### 1. 会報について

No230:巻頭言 鶴川図書館廃止問題(鈴木(真))、  
「こんな本見〜つけた!」第13回(石井)⇒次号、11月  
25日対話集会報告(まちだ未来の会・園田さん)、まち  
だ未来の会第18回学習会記録(庄司、手嶋)

### 2. 今年度の活動計画について

「対話集会 どうなる?どうする!市民自治と社会教  
育」11月25日(日)⇒実施済み(71名参加)。記録集  
づくりの話が出ている。⇒実行委員会に相談。

### 3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総 合管理計画」等について

#### まちだ未来の会の取り組み

##### ・学習会

第18回学習会⇒実施済み(16名参加)

「鶴川図書館が危ない!—お年寄りや子ど  
もたちは駅前図書館まで行けません—」

日時:12月8日(土)午後2時~4時30分

会場:市民フォーラム 4階 第1学習室A・B

\*鶴川図書館の存続を求める要望書を出す。⇒  
学習会の議論を踏まえ、内容を見直した。

#### 「すすめる会」の取り組み(省略)

### 4. 学校図書館指導員について

学校司書設置の方向で検討が進んでいる。

### 5. 第8回まちだ図書館まつりについて

第3回コアスタッフ会議 11月20日(木)の報告

臨時ボランティア会、少しずつスタートしている⇒  
中央(4,5名の参加)、忠生(12月初めの週に開催予  
定。久保出席予定)

実行委員会企画:①オープニング「春だよ~、こ  
の指とまれ」、エンディング「ビブリオバトル」公募チラシ  
を12月5日までに作成。対象はこども~大人まで。

すすめる会の取り組み(3月23日(土))

「故郷(ふるさと)の物語/人と土地をつなぐもの」

①上映とお話/今井友樹監督(今井監督がこれま  
でに制作した作品と、今製作中の作品の一部をパワー  
ポイントで上映。製作過程で感じたことや、取材した人  
たちから感じ取ったことなどを監督に伝えてもらう)

②テーマについて語れる町田市の方(2名くらい)を  
ゲストに招いて、今井監督と談話。

### 6. 生涯学習審議会への諮問「町田市立図書館のあり 方見直しについて」について

案が提示され、鶴川図書館廃止について理由を挙  
げているが、これまでの政策や現状と矛盾している。

廃止理由①貸出数の減少:資料費が減額され続け  
ていることが原因。②利用圏域の重複:1.5kmを利用  
圏としているが、子どもや高齢者を考えると現実的で  
ない。③建物の老朽化:建て直されるURの建物に図書  
館を入れることになっており、老朽化は当てはまらない。  
その他、さるびあ図書館の廃止、BM運行の見直し、  
民営化等の課題もある。

### 7. 町田市生涯学習推進計画2019-2023(原案)につ いて

図書館協議会に意見を求められているため、原案を  
見て意見を山口まで。図書館事業計画がなくなる。

## 報告

### 1. 図書館協議会第12回定例会報告

「知恵の樹」No230 4~5頁参照。

### 2. 会計年度任用職員制度説明会について

嘱託労が会計年度任用職員制度について、市民に  
説明、意見交換会を開くことになっていたが、11月  
12日(月)午後6時~中央公民館にて開催した。

### 3. 団体及び個人からの報告

図書館嘱託労:11月21日(水)団体交渉(会計年度  
任用職員制度)。

庄司:11月25日(日)手づくり紙芝居授賞式出席(鈴  
木出版賞)。

図書館六分会協議会:12月6日(木)定期総会・新  
役員決定。

柿の木文庫:12月15日(土)鶴川駅前図書館と共催  
でおはなし会開催。

守谷:12月9日(日)会を開き、文学館を支える市民  
の会を来年4月以降に結成する方向を確認。

《編集後記》鶴川図書館が廃止されてしまう。さるび  
あ図書館や移動図書館も危ない。今こそ行動を!(T?)